

第1学年〇組 道徳学習指導案

指導者 ○〇 ○〇

1 主題名 低学年1-(4) 明朗誠実

資料名 「よごれた てえぶるかけ」 (学研)

2 主題設定の理由

- 本主題は、「うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活をする。」ことを主なねらいとしている。

子ども達が積極的で健康的な自己像を描くには、自己の過ちを認め、改めていくすなおさをもつとともに、誠実さを持ち、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。このような姿勢は、自分に対しても他人に対しても後ろめたいことがなく、その人が持つ能力を最大限に発揮することができる。児童を取り巻く環境では、少子化や核家族化の影響で、ややもすれば過保護に育てられ、失敗することや、間違ふことを経験できずに成長している児童が少なくない。そのため、自分がつまづくことを恐れて行動が鈍ったり、また、起きてしまった失敗や間違いを隠そうとしたりしてしまいがちである。

そこで、失敗をごまかすために、簡単に嘘をついてしまったことによって起こる苦しい気持ちや罪悪感を通して、正直で誠実であろうとする心情を育てたい。

- 本学級の児童は、明るく素直な児童が多く、これまで愛情をしっかりと受けて育ってきたのがよく分かる。そのような児童は、親や教師に対して誉められたい、認められたいという思いが強い。そのために、失敗や間違いを避けようとする児童が多く、仮に失敗をしたり間違いを指摘されたりすると、自分のした間違いを素直に認めることができなかつたり、話をすりかえたりする児童もいる。また、事前のアンケートにからも、嘘をついた経験があると答えた児童は、9割以上おり、自分の失敗や間違いを誰かのせいにした経験を持つ児童も少なくない。そこで、失敗をごまかし、嘘をついた時の罪悪感や、心の痛みに触れさせる学習が大切だと考えた。このことは、自分に対しても他人に対しても正直でいようとする、清清しく明るい心を育てるためにも意義深い。

- 本資料は、「間違つて飲み物をこぼし、テーブルかけを汚してしまったことを、飼い猫のせいにし、それを見すかした母親の寂しそうな表情を見て、ぼくも寂しい気持ちになった。」という話である。自分のした失敗を猫のせいだと嘘をついた際の心苦しさを、嘘をついたことで母親を傷つけてしまった悲しみが語られている。

本時指導にあたっては、児童の学校生活、家庭生活の中で起こりそうな話から、児童自身と重なる主人公の気持ちに共感しながら見ていくことで、価値に迫っていきたい。導入では、事前アンケートの結果を表にして示し、多くの子ども達が「嘘をついた」経験があると気付かせたい。「嘘をつく」という、堂々と言うことができないことを、誰もががしたことがあると知ること、めあてを意識させながら、資料へつなげる。展開前段では、自分の失敗を飼い猫のせいにする時の主人公の気持ちを考えさせる。そして、それを見透かしたお母さんの寂しそうな顔を見た後の主人公の気持ちを対比的に考えさせたい。ここではまず、お母さんから寂しそうに「そう。」と言われた時の表情を作らせ、その表情にした理由を発表させる。その後、道徳ノートに主人公の気持ちを書かせ、共感的にねらいに迫らせていく。展開後段では、事前のアンケートに立ち返り、自分の経験を想起させることによって、今後の生活の中で正直で誠実に生きようとする意欲を持たせる。終末では、教師自身の体験談を聞かせ、今後の生活における価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

本当のことを言わなかつたために起こる苦しい気持ちや罪悪感を通して、正直でありたいという心情を育てる。

4 本時 平成21年10月19日(月) 第5校時 第1学年〇組教室に於いて

5 準備 資料「よごれた てえぶるかけ」、アンケートの結果(表)、挿絵、道徳ノート

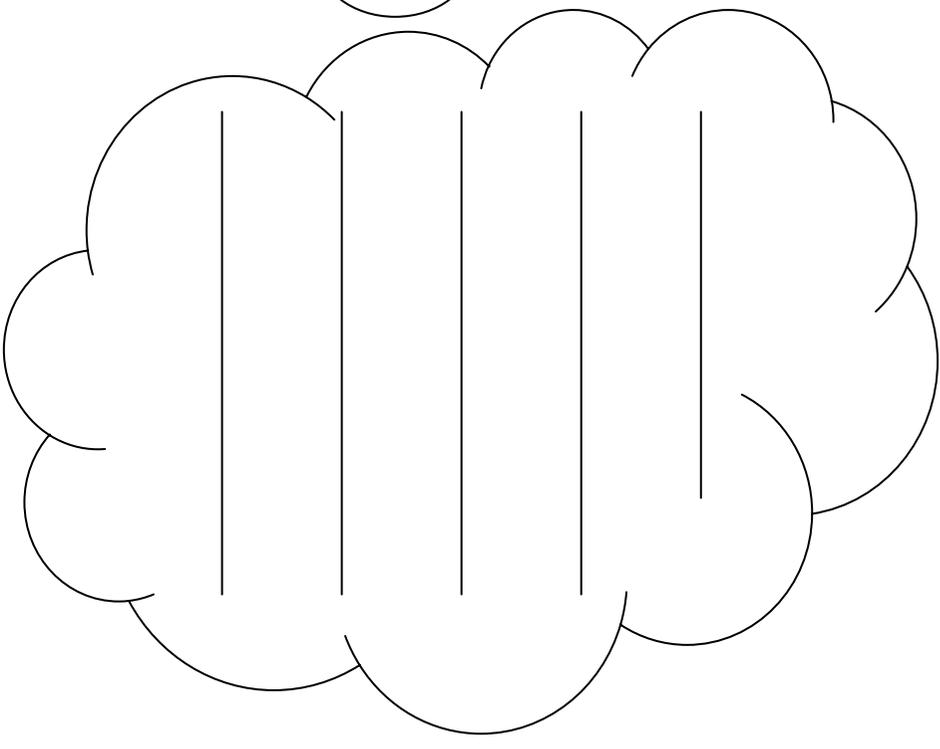
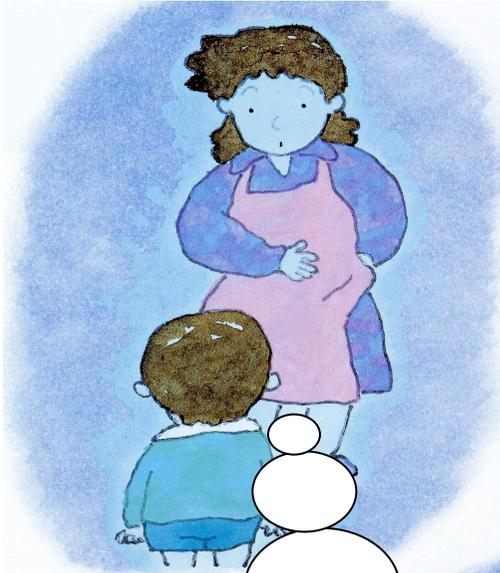
6 展開

階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 アンケートの結果を見て話し合う。</p> <p>○ ほとんどの人が本当の事を言えなかったことがあるんだね。</p> <p style="text-align: center;">— めあて —</p> <p style="text-align: center;">ほんとうの ことを いえなかった あとの きもちを かんがえよう。</p>	<p>○ アンケートの結果を表にしておき、提示することによって、価値（ねらい）への方向付けをはかる。</p>
展 開 前 段	<p>2 資料「よごれた てえぶるかけ」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 汚してしまったテーブルかけのことを飼い猫のせいにしようとするぼくの気持ちを話し合う。</p> <p>○ お母さんから怒られたくない。</p> <p>○ たまなら、何も言えないからいいだろう。</p> <p>(2) ぼくに嘘をつかれたお母さんの気持ちを話し合う。</p> <p>○ 嘘をつかれて悲しい。</p> <p>○ 本当のことを言ってほしい。</p> <p>(3) 寂しくなったぼくの気持ちを、話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さびしくなったぼくは、どんな気持ちだろう。</p> <p>○ 嘘をつくって苦しい、つらい。</p> <p>○ 嘘をつかなければよかった。</p> <p>○ 本当のことを言っていれば、お母さんは悲しくなっていないかもしれない。</p> <p>○ もう嘘はつかないぞ。</p>	<p>○ 教師の範読を通して、資料「よごれた てえぶるかけ」の概要をつかませる。</p> <p>○ ぼくやお母さんの気持ちを共感的に理解させるため、挿絵に吹き出しを付け、子ども達の考えを板書する。</p> <p>○ お母さんの嘘をつかれた悲しさに気付かせるため、「さびしそう」という言葉に目を向けさせる。</p> <p>○ 嘘をついた苦しさや、お母さんを傷つけた悲しさに気付かせるために、ぼくの立場に立って、道徳ノートの吹き出しに気持ちを書かせる。</p> <p>○ 主人公に共感させ、ぼくの後ろ姿の挿絵から、その時の表情を作らせる。そして、その表情にした理由を発表させることで、つらさや罪悪感に気付かせる。</p> <p>○ 飼い猫のせいにしようとして嘘をついている時と寂しい気持ちになった時の気持ちを比べさせ、変化に気付かせる。</p>
展 開 後 段	<p>3 今までの生活を振り返り、本当のことが言えなかった経験について話し合う。</p> <p>○ 私が壊したおもちゃを、妹が壊したと言ってしまった。その後ずっといやな気持ちだった。</p> <p>○ 友達とけんかした時、ぼくも悪口を言ったのに、言ってないと言った。</p>	<p>○ 必要に応じて、アンケートの結果で出ていた事例、他の学級の実例を紹介し、経験想起の手がかりとする。</p> <p>○ 自分の経験を発表できたり、手を挙げたりすることができた児童を十分に賞賛する。</p>
終 末	<p>4 教師の体験談を聞くことによって、これからの生活に生かそうとする意欲をもつ。</p>	<p>○ 教師の話を書くことで、嘘をついたりごまかしたりすることなく、明るく正しくあろうとする気持ちを大切にしようとする意識の継続を図る。</p>

めあて
ほんとうの ことを いえなかった あとの きもちを かんがえよう。

「よこれた てえぶるかけ」

○ きびしくなった「ぼく」は、どのような きもちだろう。



◎ 「ぼく」と おなじような きもちに なったことは ありませんか。おもいでして 書いて みましょう。

A large rectangular box with a black border, intended for writing. It contains three horizontal dashed lines for writing. The bottom right corner of the box is folded over, resembling a page in a notebook.